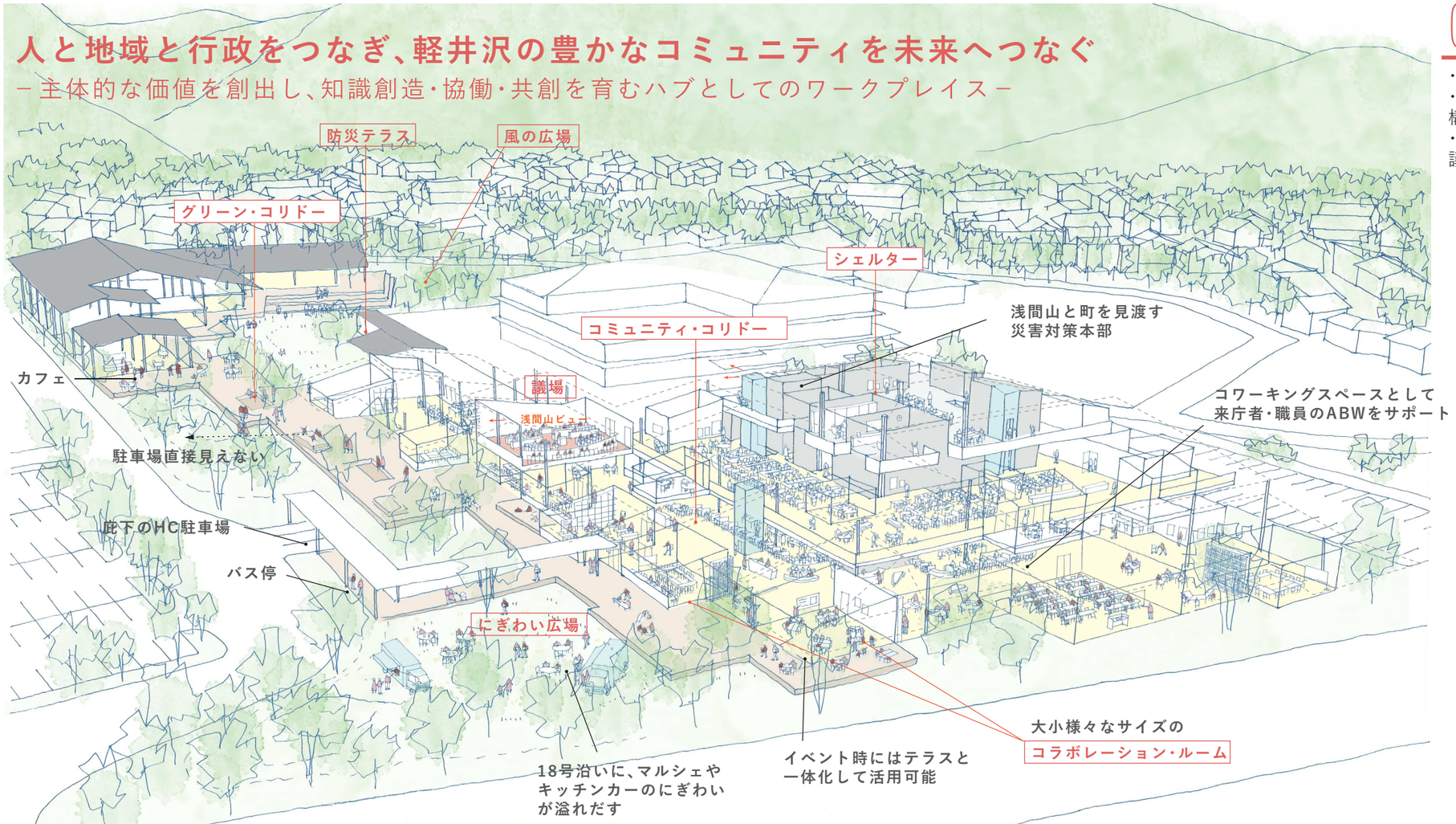
人と地域と行政をつなぎ、軽井沢の豊かなコミュニティを未来へつなぐ

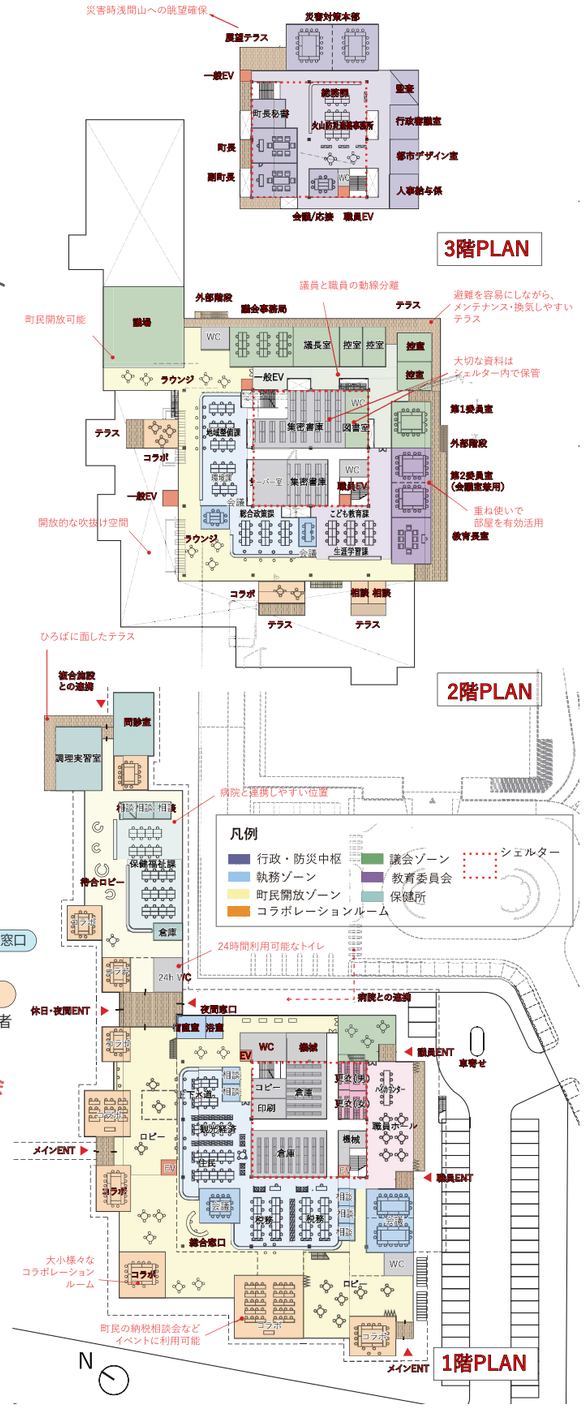
－主体的な価値を創出し、知識創造・協働・共創を育むハブとしてのワークプレイス－



05 整理された機能的・効率的な計画

テーマ1 テーマ2

・町民対応窓口は１階に集約します。
・総合窓口やエレベーターが中心付近にあり、分かり易い空間構成です。
・西側に来客用駐車場と出入口、東側に公用駐車場と職員用／議員用出入口を配置し、アクセスを明確化しています。



03 市民サービスの未来を見据え、変化と備えを強化した新時代の庁舎

テーマ2

3-1 電子化・自動化がもたらす市民サービスの未来

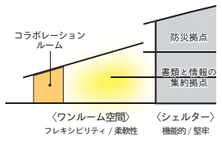
各種申請や証明書の発行などが電子化、自動化され、市民がそのために庁舎に出向くことは減り、物理的スペースはデジタルに置き換わるでしょう。一方、まちづくりや福祉などは市民と協働する機会が増え、庁舎はいずれ「協働・共創の拠点」になっていくと思われます。

3-2 町民と職員の協働の拠点＜コラボレーション・ルーム＞

＜グリーン・コリドー＞と＜コミュニティ・コリドー＞に沿って点在する会議室は、職員の打ち合わせに限らず、町民と職員が一体となった風土自治活動を行う協働・共創の場＜コラボレーション・ルーム＞として地域社会・環境・創造活動デザインの拠点にもなります。
町民や職員の自然な交流や主体的な活動を生み出す空間です。

3-3 フレキシブルで柔軟、機能的で堅牢、両方を併せ持つ骨格

日々進化する技術や予測困難な時代の庁舎にフレキシビリティが求められる一方、増え続ける書類と情報の集約拠点、気候変動に備える防災拠点としての役割は、より重要になっています。
変化にフレキシブルに対応可能な＜ワンルーム空間＞は、将来の改修・更新がしやすいおおらかな骨格。
耐火・セキュリティなどの機能性に加え、集密書架やサーバーの拡張などにも対応する＜シェルター＞は、市民にとっての安心・安全を支える堅牢な骨格です。

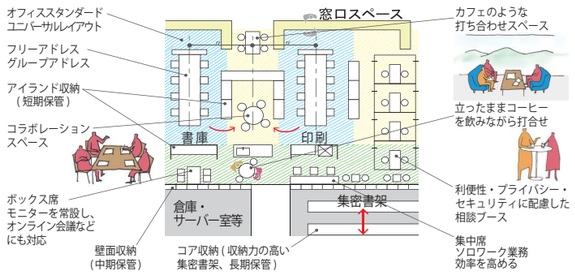


04 意識改革（チェンジマネージメント）を促進する しかけに満ちたワークプレイス

テーマ1 テーマ2 テーマ3

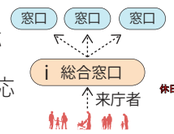
4-1 オフィスからワークプレイスへ

・課の人数の変動や次世代型窓口対応の方法の変化に柔軟に対応できる計画とします。
・課の間に身近な打ち合わせスペースを配置し、机はフリーアドレスを検討します。
・集中・ディスカッション・共有・リラックスに対応したブース・カウンター・ラウンジ・テーブル・マグネットスペースなどを分散配置します。
・パフォーマンスの最大化に意識的になり自分で働き方をデザインできる空間です。



4-2：利用者に寄り添う庁舎

・総合窓口・コンシェルジュでのワンストップ対応
・個室ブース・ラウンジテーブル・カウンターなど多様な設えで、複雑化する町民相談に対応
・ユニバーサルデザインに配慮し、だれにでも分かり易く、やさしい庁舎



4-3：浅間山の眺望と町民がアクセスしやすい議会

雄大な浅間山を臨む議場は＜コミュニティ・コリドー＞の２階に浮かぶように配置され、町民にも開かれた場として様々なイベントにも対応可能です。